

# 宮城県のスマート農業技術の 開発・実装に向けた取組

令和7年12月16日

宮城県農政部農業振興課



みやぎスマート農業推進ネットワーク (R元～)  
RTK利用拡大コンソーシアム (R5～)



アグリテックアドバイザー  
(R3～)

スマ農コンシェルジュ  
(R5～)

革新支援専門員・普及員

スマート農業通信 (R2～)

スマート農業活用の手引き  
(R3～)



推進体制

相談対応

人材育成

情報提供

技術実証

ハード

アグリテックセミナー

普及員研修

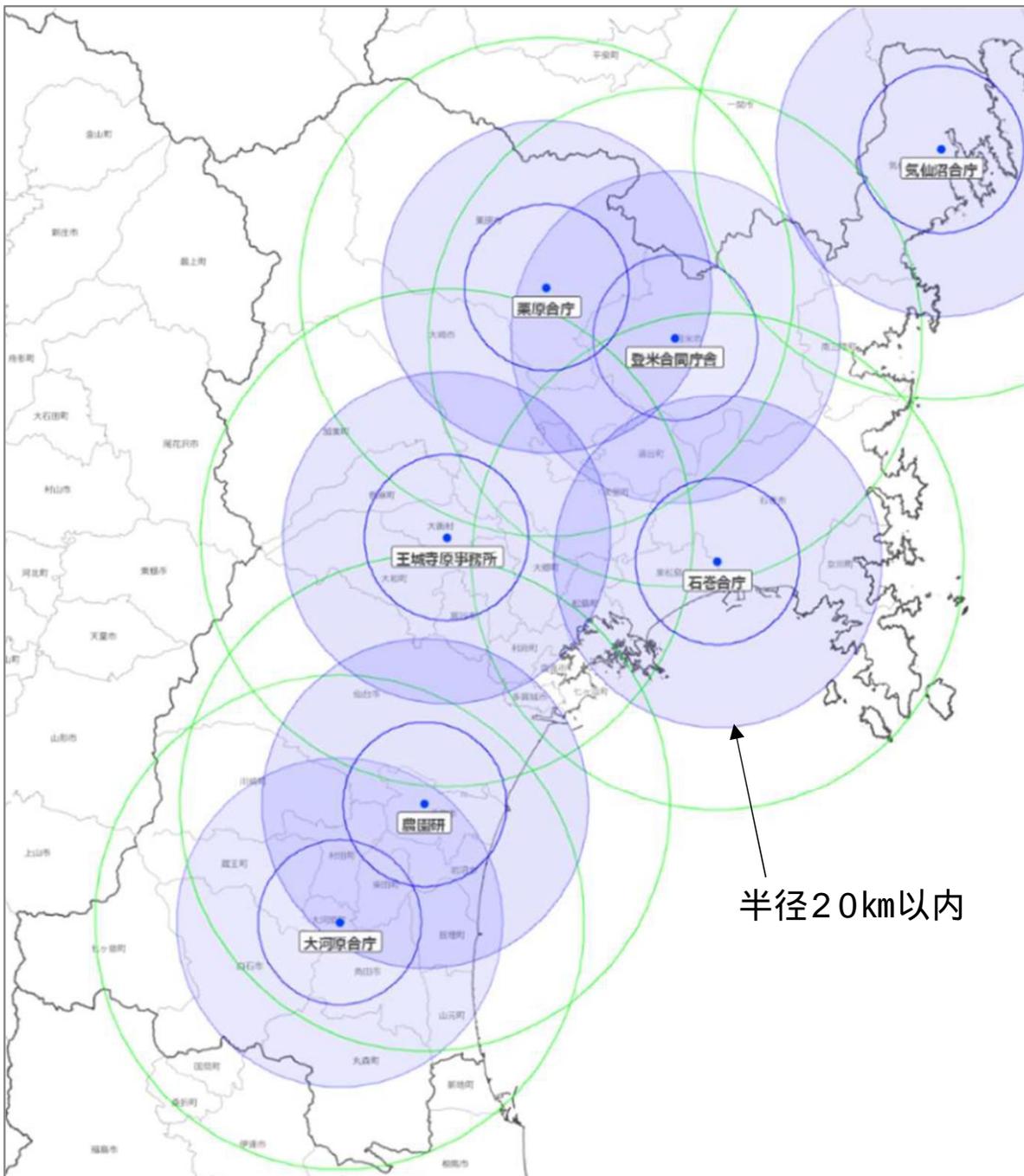
アグリテックアドバイザー

スマート農業実証プロジェクト (R元～3)

革新重点プロジェクト  
(R6～)

RTK基地局の整備・運用 (R4～)  
県単補助事業 (R2～)





- ・R4年度に整備
- ・R5年4月から本格運用を開始

【利用者】 制限なし

【基地局】 県内7か所（県施設）

【配信方式】 Ntrip方式  
（インターネット配信）

【利用料】

1台目 20,000円/年

2台目以降 10,000円/年/台

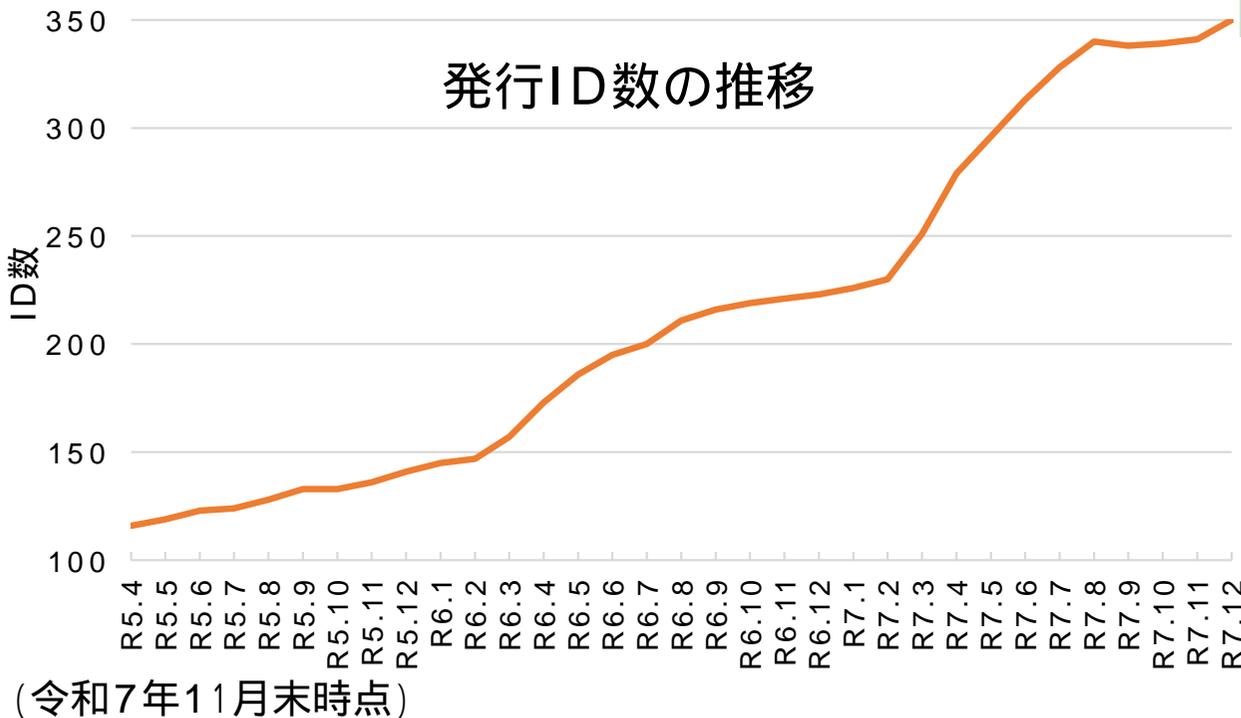
当初の利用者の目標

R12年度までに250経営体

# 県RTKシステム利用農業者数

経営形態		利用者数	ID数
農業者	個人	149	164
	法人	121	181
	任意組織	6	6
<b>農業者計</b>		<b>276</b>	<b>351</b>
県、メーカー等		10	51
合計		286	402

主な使用方法	ID数
後付け自動操舵システム	228
ドローン	65
自動操舵トラクター	22
ロボットトラクター	14
自動操舵・ロボット田植機	6
ロボットコンバイン	5
その他	1



ID数 / 利用者	利用者数
1	226
2	33
3	13
4	1
5	2
6	1
合計	276

# 県RTKシステム利用農業者 (市町村別)

利用面積(利用農業者  
経営面積の合計)

10,823ha

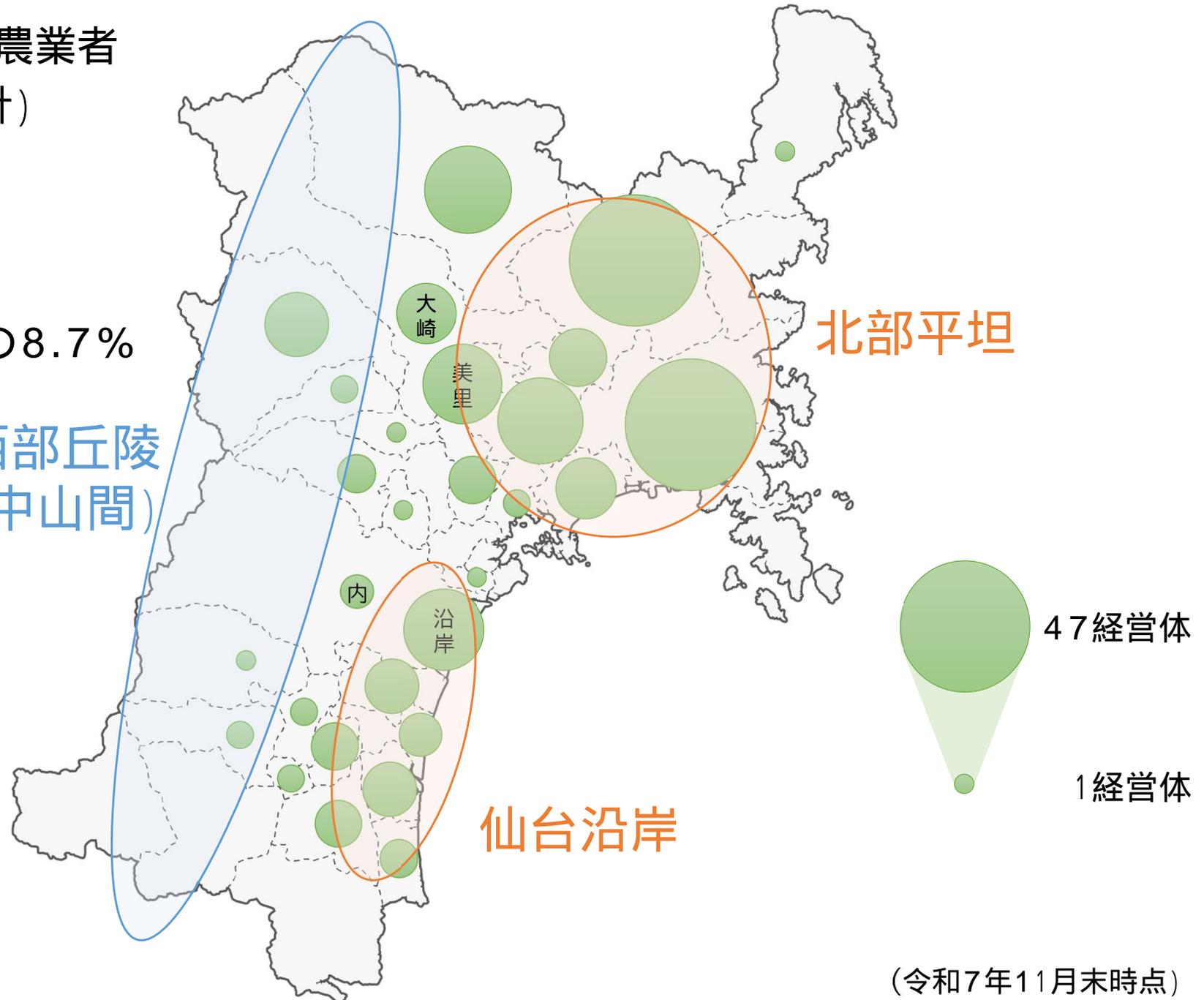
県耕地面積

123,900haの8.7%

西部丘陵  
(中山間)

北部平坦

仙台沿岸



(令和7年11月末時点)

露地野菜の排水対策・耕うん・播種・防除・収穫などをRTKシステムを活用して行い、高精度な機械化一貫体系の確立と、スマート農業の効果を検証

(農業・園芸総合研究所)

## 【主な品目】

たまねぎ、えだまめ、ばれいしょ、  
ブロッコリー、はくさい 等

## 【技術の特徴】

- RTKによる作業の省力化
- 精度の高い畝立て作業  
その後の管理精度を向上

## 【期待される効果】

- ・RTKシステムを活用した、露地野菜の作業体系を確立
- ・水田フル活用のための高収益作物の導入促進、収量・品質の向上



カットブレーカーminiでの排水対策



タマネギの畝立て直播作業



ドローンによるえだまめの防除作業



えだまめの収穫作業

スマート農業技術の導入効果を明確にし、普及拡大に向けたメリットを整理

## 【実証 RTK×大容量ブーム】

RTKによる自動操舵  
大容量ブームによる高速散布  
位置情報とセクションコントロールによる重複散布の回避



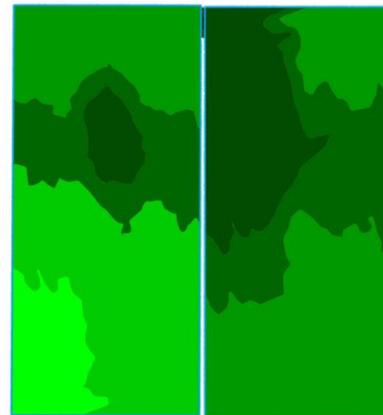
トラクターマウント型大容量ブームスプレーヤー

## 【結果】

通常の散布作業(ハイクリブーム)よりも作業時間を半分に短縮

## 【実証 RTK×ザルビオ×可変施肥】

ザルビオFMで可変施肥マップを作成  
RTK位置情報による高精度な散布  
セクションコントロールによる重複散布の回避



ザルビオの地力マップ



可変施肥機

## 【結果】

可変施肥ほ場では、後半の生育(生育マップ)が均一になったが…



R7.6月 スマホへのアプリ登録の実習



R7.8月 ザルビオの勉強会



R7.6月 効果的な活用に向けた指導



R7.8月 システムの選定指導